

国立大学法人京都大学教職員の再雇用に関する規程

平成16年4月1日

達示第78号制定

(目的)

第1条 この規程は、国立大学法人京都大学教職員就業規則(平成16年達示第70号。以下「就業規則」という。)第23条の規定に基づき、定年により退職した教職員の再雇用に関する事項を定めることを目的とする。

(対象者)

第2条 再雇用の対象となる教職員は、就業規則第22条第1項第2号の規定により定年退職した者とする。

(再雇用の方法)

第3条 再雇用は、高齢者等の雇用の安定等に関する法律(昭和46年法律第68号)第9条第2項の規定に基づく労使協定により定められた基準を満たした者に対して行う。

(任期)

第4条 再雇用の任期は、4月1日から翌年3月31日までの一年を超えない範囲内において定める。

(試用期間)

第5条 再雇用された教職員(以下「再雇用職員」という。)には、試用期間を設けないものとする。

(任期の更新)

第6条 第4条の任期又はこの項の規定により更新された任期は、1年を超えない範囲内で更新することができる。

2 第3条の規定は、前項の更新の場合に準用する。

(再雇用の上限年齢)

第7条 第4条及び前条に定める任期の末日は、生年月日別に次表の上限年齢に達する日以後における最初の3月31日以前でなければならない。

生 年 月 日	上限年齢
昭和21年4月2日～昭和22年4月1日	満63歳
昭和22年4月2日～昭和24年4月1日	満64歳
昭和24年4月2日以降	満65歳

(人事異動通知書の交付)

第8条 次の各号のいずれかに該当する場合には、人事異動通知書を交付するものとする。

- (1) 再雇用を行う場合
- (2) 再雇用の任期を更新する場合
- (3) 再雇用の任期の満了により退職する場合

(休職)

第9条 再雇用職員には、就業規則第15条第1項第1号及び第3号の規定は適用しない。

(給与)

第10条 再雇用職員の給与に関する事項については、次条及び第12条に定めるもののほか、国立大学法人京都大学教職員給与規程(平成16年達示第80号。以下「給与規程」という。)の定めるところによる。

(俸給月額等)

第 1 1 条 再雇用職員の俸給月額は、2 0 0 , 0 0 0 円とする。

2 給与規程第 1 1 条の規定は、再雇用職員には適用しない。

(手当)

第 1 2 条 再雇用職員に支給できる手当は、次の各号に掲げる手当とする。

- (1) 通勤手当
- (2) 超過勤務手当
- (3) 休日給
- (4) 夜勤手当
- (5) 宿日直手当

2 前項の手当の支給は、給与規程の定めるところによる。ただし、超過勤務手当のうち、教職員の所定の勤務時間に相当する時間内における勤務については、給与規程第 3 9 条に規定する勤務 1 時間あたりの給与額を超過勤務手当として支給する。

(勤務時間、休日及び休暇)

第 1 3 条 再雇用職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する事項については、次条から第 1 6 条までに定めるもののほか、国立大学法人京都大学教職員の勤務時間、休暇等に関する規程(平成 1 6 年達示第 8 3 号)の定めるところによる。

(所定労働時間)

第 1 4 条 再雇用職員の所定勤務時間は、1 週間(日曜日から土曜日までとする。)につき 3 5 時間、1 日につき 7 時間とする。

(始業及び終業の時刻等)

第 1 5 条 再雇用職員の勤務の始業及び終業の時刻並びに休憩時間は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 始業 午前 9 時 3 0 分
- (2) 終業 午後 5 時 3 0 分
- (3) 休憩 正午から午後 1 時まで

2 業務の都合上必要があると認める場合は、前項の始業及び終業の時刻並びに休憩時間を変更することがある。

(年次休暇)

第 1 6 条 定年退職に引続き再雇用職員となった者の年次休暇は、当該退職時においてその者が有していた年次休暇の日数及び時間数とする。

2 第 6 条により任期が更新された場合の年次休暇は、当該更新された日の前日においてその者が有していた年次休暇の日数及び時間数とする。

(懲戒)

第 1 7 条 再雇用職員の定年退職となった日までの引き続く教職員としての在職期間中の行為が、就業規則第 4 9 条の懲戒の事由に該当したときは、これに対して懲戒に処することができる。

(他の規則等の関係)

第 1 8 条 この規程に定めのない再雇用職員の就業に関する事項については、就業規則の定めるところによる。

附 則

1 この規程は、平成 1 6 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 1 6 年 3 月 3 1 日限り国家公務員法(昭和 2 2 年法律第 1 2 0 号)第 8 1 条の 2 の規定により定年退職した者は、第 2 条に規定する「定年退職した者」とみなす。

附 則(平成17年達示第73号)

- 1 この規程は、平成17年12月1日から施行する。

附 則(平成18年達示第27号)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則(平成18年達示第48号)

- 1 この規程は、平成18年7月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際現にこの規程による改正前の国立大学法人京都大学教職員の再雇用に関する規程第3条の規定により再雇用された教職員は、改正後の規程にかかわらず、平成19年3月31日までは、なお、従前の例による。
- 3 前項に定める教職員が、平成19年4月1日以降も引き続いて雇用を希望するときは、この規程により雇用することができるものとする。この場合において、第7条の表生年月日の項中「昭和21年」とあるのは「昭和20年」と読み替えるものとする。